

# 大牟田市立宮原中学校

## 1 本校のESDの特徴



本校は、学校教育目標「志を持ち自ら考え行動できる生徒の育成」を掲げグローバル人材の育成に努め、「大牟田版SDGs」の達成に向けた学習を行っている。校務分掌にESD推進部を位置づけ、地域連携コーディネーターを置き、地域の方々との連絡・調整を図っている。地域の「ひと・もの・こと」を教育課程と結び付け、様々な「つながり・かかわり」を大切にしながら、持続可能な社会をつくる生徒の育成をめざすとともに、社会に開かれた教育課程の理念をふまえ、学校教育全体を通して、Society 5.0で育みたい力の育成に努めている。

なお、本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、大幅に予定を変更した。

## 2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画（本年度は大幅に変更）

目標の具現化に向けた実践				地域・保護者の支援
	1年	2年	3年	
総合的な学習の時間	〈福祉学習〉 1. 大牟田市の福祉の現状把握 2. 高齢者や認知症についての学習 (GTによる絵本教室・認知症学習など) 3. 特別支援学校との交流 〈キャリア学習〉 1. 職業調べ 2. 職業インタビュー 〈世界遺産学習〉 1. 世界文化遺産宮原坑見学 2. 世界遺産を守る活動 (市役所・地域の方々)	〈福祉学習〉 1. 高齢者とふれ合う職場体験学習 〈キャリア学習〉 1. 職業体験学習 2. 働く上で大切な心構えや意義等についてまとめ発表 〈世界遺産学習〉 1. 国内の世界遺産に関する学習 (価値・想い・参画・行動化) 2. 京都・奈良方面への修学旅行 の中に自主研修を位置付けて、各グループが立てた計画に基づき、国内の世界遺産に係る学習をすすめていく。	〈福祉学習〉 1. 思いやりの心と生命の尊さなどを考える乳幼児とのふれ合い保育体験活動 2. 乳幼児との関わりから学んだことを発表・発信 〈キャリア学習〉 1. 高校調べ 2. 進路実現に向けた学習 3. セルフプレゼンテーション 〈世界遺産学習〉 1. 海外の世界遺産に関する学習 (価値・想い・参画・行動化) 2. 世界遺産学習のまとめ	○地域の「ひと・もの・こと」の活用 ・GTとしての活用 ・人材バンクづくり ・生涯学習課等との連携 ・地区公民館との連携 ・地域の職場の活用 ・公共施設の利用 (駒馬・勝立地区公民館、幼稚園、保育園等) ・世界遺産宮原坑 ・大牟田の伝統・文化 (炭鉱・大蛇山等の祭)
	生徒会	〈国際理解〉・ユニクロ服のカプロジェクトの取り組み 〈環境〉・地域清掃活動・ふれあいボランティアパスポート・ユネスコスクールと交流 ・海外との交流		
ボランティア	・ほっとあんしんネットワーク模擬訓練 ・ヤマの祭典 ・そうめん流し ・はやめカップまつり ・宮原坑社宅DIYプロジェクト ・人情手巻き寿司 ・もちつき 等			・勝立大蛇山

## 3 特徴的な活動事例（本年度限定の取組を含む）

○福祉学習・防災学習・「まちづくりの学び」を中心に



【写真1】美術部の絵手紙制作

本校区は、共生社会の構築に向けた「高齢者ケア」の先進地である。「誰もが安心して住めるまち」を目指した様々な取組やシステムが構築されており、全国から視察者が訪れている。「誰ひとり取り残さない」というSDGsの理念にも合致しており、大牟田市版SDGsの重点項目となっている。本年度も地域の民生委員の方々のご協力のもと、「ひとり暮らしの高齢者宅訪問」を実施し、生徒が作成したカレンダーを持



【写真2】描いた絵手紙を社会福祉協議会の方へ



【写真3】Xmasカードの制作



【写真4】ゴールボールを体験



【写真5】交トラスリボンプロジェクト



【写真6】南三陸町とのオンライン交流



【写真7】夕張市との交流

参して訪問し、交流を行う予定であったが、実施することができなかった。そこで、天の原校区社会福祉協議会と本校美術部が連携して、絵手紙を高齢者の方の自宅へ届ける活動を行った。具体的には、子どもたちが描いた絵手紙を民生委員さんに届けていただくものである。

また、例年実施している大牟田特別支援学校との交流も形式をかえて実施した。クリスマスカード交換やカレンダーづくりを行い交流をした。

さらに、国際パラリンピック委員会の公式教材『I'mPOSSIBLE』を活用し、パラリンピックを扱った学習も実施した。子どもたちにパラリンピックの魅力や価値を伝え、パラリンピックムーブメントを推進することを目的とし、パラリンピックの価値やパラリンピックスポーツの中の様々な工夫を通して、障害のある人に対する思い込みや先入観にとられない考え方を学び、生活の中にあるパラリンピックの価値を考えたり、身の回りの「できない」を「できる」に変えていく工夫について考えたりすることで、子どもたちの認識を変える学習を行った。そして、様々な人々がともに生き活きと暮らす社会を作るためにどのようなことができるのかを考える力を養い、子どもたちが行動を起こすことを目指した。

コロナ禍の折、「シトラスリボンプロジェクト」がスタートした。このプロジェクトは、誰もが新型コロナウイルス感染症に感染するリスクがある中、たとえ感染しても、地域で笑顔の暮らしを取り戻せることの大切さを伝え、感染された方や医療従事者を「おかえり!」「ただいま!」の気持ちで受け入れ、思いやりのある暮らしやすい社会を目指すプロジェクトである。シトラスリボンの3つの輪は、「地域」「家庭」「職場」を表現している。リボンは、関係各位へ感謝の意をこめて、贈呈した。

また、防災学習の一環として、南三陸町観光協会とオンラインで結び、東日本大震災に係る学習を行った。本年度は、大牟田市でも豪雨災害が起こり大きな被害を受けた。生徒たちは、自然災害による被害の減災に向けて自分たちにも取り組めることについて考察した。さらに、大牟田市と同じ旧産炭地の夕張市ともまちづくりについて意見交流を行った。本校からは、生徒会で作成したシトラスリボンを送り、市の拠点複合施設「りすた」に掲示され、市民の方々にリボンを持ち帰っていただいている。また、夕張市からは、子どもたちの詩集が送られ、本校図書室前ロビーに掲示した。共に、地元紙にとりあげていただいた。

#### 4 本年度の成果と課題

##### ○成果

- ・WithコロナをふまえたESDの推進
- ・地元の「玉川校区SDGs・ESD推進協議会」のイベントへの参加
- ・カリキュラムマネジメントの観点からのSDGsマトリックスの作成

##### ○課題

- ・「資質・能力」の育成をふまえ9カ年を見通した小学校と連携した教育課程の研究。
- ・ストーリーマップの作成と学習の体系化、宮原校区版SDGsの作成、推進組織の結成

